

「たがさぽ文庫」のご案内

たがさぽの図書スペース「たがさぽ文庫」に新しい本が入りました。

「たがさぽ文庫」は、市民活動やNPO、ボランティアやまちづくりなど、みなさんの活動のヒントになるような書籍を中心に、1,200冊近い蔵書を取り揃えています。中には、一般の書店や図書館には置いていない本もあります。市民活動に関心のある方、すでに活動している方、これから何か活動をはじめたいと思っている方は、ぜひご活用ください。

- たがさぽ文庫 本の借り方**
1. 利用登録
 2. 窓口で貸出カードに記入
 3. 借りられるのは1回に2冊まで
 4. 2週間以内に返却

新しい本の
一部を紹介
します！

	みんなでまもった美術館 宮城県美術館の現地存続運動 全記録 宮城県美術館の現地存続を求める県民ネットワーク/編著・発行
	日本のコレクティブ・インパクト 一協働から次のステップへ 佐々木利廣・横山恵子・後藤祐一/編著 中央経済社/発行
	かかわりの循環 一コミュニティ実践の社会学へ 松宮朝/著 晃洋書房/発行
	シジウカラガン物語 しあわせを運ぶ渡り鳥、日本の空にふたたび！ 呉地正行・須川恒/編 京都通信社/発行

ヒント from たがさぽ Press たがさぽのブログから、地域づくりに役立つ記事をご紹介します！

HINT/ 01 Tagajo Sustainable Relationship 2021 ～防災とインクルーシブなまちを考える～ ゲストトーク①をレポートします！ 2022年2月21日(月)掲載	HINT/ 02 コロナ禍でもできる 地域で身近な支え合い 2020年10月29日(木)掲載	HINT/ 03 TAGAJO Future Labo 5th season 「マイアプローチ発表会」を 開催しました！ 2020年1月24日(金)掲載
--	---	--

たがさぽホームページ 多賀城市市民活動サポートセンター	たがさぽPress 定期的更新中 たがさぽスタッフによるブログ
@tagasapo	たがさぽチャンネル

tag アンケート 誌面づくりの参考にしたいと思しますので、ぜひご協力をお願いします！

以下のような情報もお待ちしています！

- 自分たちの団体を取材してほしい
- こんな話題を取り上げてほしい
- ユニークな活動や、地域のためにがんばっている団体・人を知っている

What's? tag. 「tag」には、多賀城 (tagajo) の頭3文字、みんながタッグを組んで地域をつくる、多賀城に新しいタグ(価値)をつける、という意味が込められています。

たがさぽとは? 多賀城市市民活動サポートセンター(通称たがさぽ)は、「もっとまちを良くしたい!」「地域にあるいろんな困りごとを解決したい!」という想いをもって、地域でさまざまな活動に取り組む市民のみなさんを応援する「地域づくり」の拠点施設です。

発行:多賀城市市民活動サポートセンター
〒985-0873 宮城県多賀城市中央2丁目25-3
(多賀城市文化センター北隣・上下水道部向かい)
TEL:022-368-7745 / FAX:022-309-3706
発行:2022年6月
編集:NPO法人せんだい・みやぎNPOセンター



多賀城発で多賀城着。
ヒト・コト・モノを届けます。

「tag(たっぐ)」は多賀城をもっとよいまちにしていきたい、社会や地域のために何か活動したいという方を応援するフリーペーパーです。

TAKE FREE
2022.6
VOL. 98



▲チャアリーダーズと一緒に笑顔で踊ります。体を動かすのが苦手な子ども、大学生やボランティアスタッフがサポートしています。

スポーツで障がいの垣根をなくそう



5月5日、さんみらい多賀城イベントプラザにて、『インクルーシブスポーツキャラバン2022 in 多賀城』が開催されました。県内の特別支援学校や小・中学校に在籍する児童・生徒総勢127名が集まり、チャアダンスやボールを使ったゲームなど、さまざまな運動で交流を深めました。共催団体のひとつ、障がい者サポーターズGolazo!の相澤直さんは、「会場の前まで来て中に入れずに帰ってしまっていた子どもが、徐々に参加者の輪の中に入れるようになった。今後は、そんな子どもたちに自分で楽しみ方を見つけられるようになってほしい」と話します。相澤さんが目指しているのは、「障がいのある人とない人の垣根がなくなること、それがあたりまえになること」。そんな社会の実現に向けて、このイベントは大きな一歩となるに違いありません。

インクルーシブスポーツキャラバンとは?

障がいの有無や程度に関わらず、ともに体を動かし、スポーツの楽しさを体感してもらうことを目的としたイベント。障がい者サポーターズGolazo!を中心に、尚綱学院大学、知的障害者サッカーチームSendai Forza(センダイ フォルツァ)、ペガルタ仙台、開催地の自治体が連携し、それぞれの得意分野を生かして「すべての子どもが楽しめる場」を作っています。昨年6月に多賀城で第1回を開催したのを皮切りに県内各地で今年度も開催。「インクルーシブ」という言葉には「仲間はずれにしない」「みんないっしょに」という意味があります。

子どもたちの感想 ・たくさん体を動かすことができて楽しかった ・ダンスをがんばった	
保護者の感想 ・新しい居場所ができました ・コロナの影響で閉じこもりがちになっていたので外に出るいいきっかけになった	

◀サッカーで元気いっぱい走り回る参加者。相澤さんには「障がいがあっても、こんなこともできる」と保護者の方へ前向きに思ってもらいたいという願いもあります。

イベントの詳細お申し込みはコチラ
尚綱学院大学ホームページ





みんなで考える多賀城のこと

地域で、集まる・楽しむ・つながる

支え合える地域社会を目指して、誰でも参加できる「みんなの居場所」づくりを行っているNPO法人ケアブレンドの取り組みを紹介します。

地域のつながりを強めるために

災害時、隣近所の人同士、声を掛け合って乗り越えた経験はありませんか？いざという時に地域ぐるみで助け合うためには、日頃から顔の見える関係性を構築しておくことが大切です。そんな「支え合える地域社会」を目指して、NPO法人ケアブレンドは誰でも参加できるコミュニティづくりに取り組んでいます。



▲はじめに、ご当地体操『多賀モリ体操』やストレッチで体を温めました。全身のあらゆる動きが取り入れられているので、心も体もリフレッシュできます。

世代を超えたコミュニケーション

5月7日には、西能ヶ田町内会の協力のもと「でんじょうやまギフトサロン」を開催しました。当日は、多賀城高等学校のボランティアスタッフを含め25人が集まり、多賀城市多賀モリ会メンバーの指導による体操、これからの季節に役立つ熱中症に関する健康講話、ボードゲームなどで交流を楽しみました。参加したみなさんからは、「町内の回覧板を見て興味を持った。友達と一緒に参加できてうれしい」「高校生がボランティアをやっているのが活気がある」「体をいっぱい動かせたのでスッキリした」といった声が聞かれました。ボランティアスタッフのみなさんも、「初めてなので緊張していたけど、和やかな雰囲気だったので楽しむことができた」と話していました。



▲ジェンガに熱中する参加者。世代を超えて楽しく交流する姿が見られました。

助け合いの第一歩として

このイベントの背景にあるのは、新型コロナウイルス感染症の影響による、地域の活動や町内会行事の減少です。住民が顔を合わせる機会が減ってしまったことを危惧していた西能ヶ田町内会に企画を持ち込み、連携することで、より地域に密着したイベントを目指しました。また、高齢者向けの体操の時間を長めに取るなど地域ごとのニーズに対応したり、雑談やゲームなどの楽しめる要素に重きを置くことで、常連の人はもちろん、新規の人も参加しやすい環境を生み出す工夫をしているそうです。

「集まって人と出会い、楽しんでもらうことが最優先です。それが、助け合いができる関係性の第一歩だと思っています」。そんな想いを掲げて、NPO法人ケアブレンドは活動しています。みなさんも、身近なことから地域でできることを考えてみませんか？



遊び心が満載のガチャガチャ寄付

◀回すことで寄付ができます。集まった募金を、ゆくゆくはギフト＝贈り物に変えて地域に還元したいという想いがあるそうです。



NPO法人ケアブレンド
公式ホームページはコチラ



市民活動 はじまりはじまり

わたしのはじめの第一歩

2015年度から2019年度までたがさぼで開催され、のべ54名の方が参加した地域の未来を描く連続講座『TAGAJO Future Labo(以下、TFL)』。この講座で得られたものとは？今回は、参加した3名にお話を伺いました。

地元を知ってほしい！



江口龍市さん
(2017・2018年度参加)

ためしに一步！ TFLはあなたにきっと損はさせません。

七ヶ浜町の湊浜区長として今年5年目を迎えた江口さん。TFLへの参加は区長になったばかりの時期。苦手な人前で話したり、何を何とかしたいと思ったことがきっかけでした。参加して、何かやりたいと考えている人が多賀城やその周辺にいることや、得意なことを仕事にしたいと思っている人がいることに驚き、

感謝しました。江口さん自身も自分の住む地域の良さを再確認でき、地元のかやの木を守る活動をさらに進め、より多くの人に地元を知ってほしいと考えるようになったそうです。

アドバイザーの親身なサポートでプログラムをやり遂げることができ、人前で話すことに緊張しなくなり、自信が持てるようになりました。

前に進めないと思っていたらとりあえず行ってみて。自分が気づいていない部分を引き出してくれる場がTFLです。

身近な人から困りごとや悩みを相談された時に、何か力になれることはないかと思っていた遠藤さん。TFLが自分の思う「何か」が現実になる場ではないかと思い立ち参加しました。他の参加者がしっかりとした想いを持っていることに驚き、刺激を受け最初はついていけず一杯でした。

しかし、回を重ねるごとに自分の中でおぼろげだった「何か」がはっきりしてきたそうです。その想いから行政書士の資格を取得した遠藤さん。「人が生活するうえで必要だけどできない、わからない、困ったことを抱えている方に、生まれ育った愛着ある多賀城の場から貢献したいと思っています」と話してくれました。



遠藤輝江さん
(2017年度参加)

困りごとのカになりたいたい！

コミュニティカフェを作りたい！



阿部知子さん
(2019年度参加)

すでに活動している方とつながることができ、アドバイスがもらえて励みになりました。

阿部さんは、大好きなお菓子作りを生かしてコミュニティカフェを作りたいという想いを、TFLで具体的に考えることができたそうです。その後、「食べた人が元気になってくれるようなお菓子を作りたい」という想いを強めながらも、「みんなが楽しめる場を作ることは、自分の中で外せない要素になっている」と話します。現在は、「ゆるっと、ゆかいなみんなの自然

派おやつ」をキャッチフレーズに、植物性素材中心のお菓子を作り、今年4月には、カフェ・音楽・絵本のパフォーマンスが融合したイベントの立ち上げに参加するなど、活動の場を広げています。集まった人が自然体で楽しんでいる姿を見て、「最初に思い描いていたものがたちになってきた」と感じているそうです。

TAGAJO Future Laboとは…

「地域のために何かをしたい」「自分の特技を地域に生かしたい」そんな想いを持つ方を対象に、体験型見学やワークショップを通して、アクションを起こすきっかけづくりや想いの整理を行う連続講座です。

TAGAJO Future Labo

5回連続講座

- 7月 ゲストトーク
- 8月 想いの整理ワーク
- 9月 活動者の話を聞こう①
- 10月 活動者の話を聞こう②
- 11月 交流会

▶詳細はお問合せください

参加者募集!!

7月16日より3年ぶりにTFLがスタートします!

